

Ⅲ 地域包括ケアシステムにおける、治し、支える医療の充実

<現状>

健康づくり・健診の普及の推進

- とうきょう健康ステーションによる情報発信や、食事、運動等の生活習慣の改善や健診受診の必要性、継続的に治療を受けることの重要性などについて普及啓発
- 国民健康保険の特定健康診査や特定保健指導の支援、保険者協議会による特定保健指導等を効果的に実施するためのプログラム研修会の実施

医療・介護連携の推進

- 介護・医療・福祉サービス等が連携・協働し、高齢者が安心して地域で暮らし続けることができる地域包括支援システムの構築を目指し関連する取組を推進
- 担当患者ごとに情報共有システムが異なっている場合でも、一元的に患者情報の更新状況を確認でき、円滑に各システムの患者情報へアクセスが可能な多職種連携ポータルサイトを運営
- 医療・介護関係者間の情報共有、区市町村の在宅療養に関する取組の支援、医療介護従事者等への研修等を実施

在宅におけるリハビリテーションの取組

- 二次保健医療圏毎に地域リハビリテーション支援センターを指定し、支援センターを拠点として、リハビリテーション従事者の技術の底上げ、かかりつけ医やケアマネジャーに対するリハビリテーション知識・技術情報を提供

緩和ケアの取組

- 在宅療養における多職種連携促進のための研修・セミナーの中で緩和ケアの取組を充実
- 平成 26 年の世界保健機構（WHO）の報告によると、成人において緩和ケアを必要とする疾患別割合の 1 位は循環器疾患

治療と仕事の両立支援・就労支援

- 病気治療等の家庭と仕事の両立について、企業の取組事例や従業員の体験談など情報を提供

- 障害者の就労支援に関し、就労に向けた相談支援、支援力向上のための研修、雇用の場と機会の提供、職業訓練、雇用促進に向けた企業への支援を実施するほか、障害者の雇用状況、雇用支援制度や地域の関係機関を横断的に紹介するハンドブックを作成

情報提供・相談支援

- 東京都医療機関案内サービス”ひまわり”により、都民の適切な医療機関等の選択を支援するための情報提供を実施



<取組の方向性>

課題①	循環器病の予防・健診の普及、知識の普及啓発
------------	------------------------------

都民、区市町村、事業者、医療関係者等による、生活習慣病の発症予防と早期発見



- 循環器病の発症のリスクを高める生活習慣の改善や早期受診の重要性等に関し、区市町村、事業者・医療保険者等の関係機関等と連携し、普及啓発を実施
- 特定健康診査・特定保健指導の実施率向上を図るため、区市町村や医療保険者への支援や保険者協議会等との連携により取組を推進
- 患者や家族に対する循環器病の症状や発症時の対処法、重症化予防に関する普及啓発を推進
- 循環器病の後遺症について、分かりやすく効果的に伝わるよう必要な取組を実施
- SNS やマスメディアを活用した効果的な普及啓発、小児期から循環器病の知識に関する普及啓発を行うことについて検討
- 患者が自らの希望する医療・ケアを受けることができるよう、ACP に関する普及啓発を実施

課題②

医療・介護連携の推進

患者・家族が安心して住み慣れた地域で療養生活を継続できるよう、行政や医療・介護関係者の多職種連携が連携し、患者を支える取組が必要



- 区市町村が中心となって、地域の関係者と現状把握や課題抽出を行うとともに、在宅療養支援窓口において入院患者の在宅療養への円滑な移行や、安定した療養生活の継続等を支援する等、医療・介護等の連携体制を充実・強化
- 多職種連携ポータルサイトや地域医療連携システムの活用等により、病院と地域の連携や多職種連携、情報共有を充実
- 在宅における適切なリハビリテーションや緩和ケアの提供などについて、地域の実情に応じた多職種連携・病院と地域の連携等を促進する取組を推進

課題③

在宅におけるリハビリテーションの取組

地域で治療とリハビリテーションを継続できる体制が必要



- 再発予防、重症化予防、生活再建や就労等に向け、地域で適切なリハビリテーションが提供できるよう、医療・介護関係者の連携を促進
- 地域のリハビリテーションニーズを踏まえ、支援センターの機能・役割や設置規模について検討を行い、地域リハビリテーション支援体制を充実
- 入退院を繰り返す心不全患者等の特性を踏まえ、再発・重症化予防の観点から、適切に心臓リハビリテーションが実施されるよう、取組を検討

課題④**緩和ケアの取組**

患者の意向を踏まえ、疾病の特性に沿った適切な緩和ケアを提供することが必要



- 循環器病患者を支援する医療・介護関係者や患者とその家族等が、緩和ケアの正確な概念及び疾患の特性や状態等について理解を深めるよう、正しい知識の普及啓発を推進
- 専門的な緩和ケアの質を向上させ、患者と家族の QOL の向上を図るため、循環器病の緩和ケアに関する研修会等を通じて緩和ケアの提供体制を充実

課題⑤**治療と仕事の両立支援・就労支援**

患者及び家族が社会で自分らしく生活を送れるよう治療と仕事の両立支援・就労支援が必要



- 奨励金制度や研修、専門家派遣などにより、循環器病等の治療と仕事の両立支援が必要な患者が働きやすい職場環境を整備
- 両立支援コーディネーターの活用等、効果的な相談支援について検討
- 障害者雇用機会の提供、就労に向けた相談支援、職業訓練及び雇用促進に向けた企業への支援等を実施
- 循環器病の後遺症を有する者について、就労支援や必要な支援体制の整備

課題⑥

相談支援の充実

患者やその家族の不安や悩みを軽減するため、相談支援体制の充実が必要



- 患者やその家族がニーズに合った情報や相談窓口と速やかにつながる相談支援について調査・検討
- 循環器病に係る後遺症の相談支援の充実
- 医療機関の相談支援センターや治療と仕事の両立支援コーディネーターの効果的な活用等について検討

IV 安心して暮らせる東京を築く人材の確保・育成

<現状>

- 専門医認定支援事業等を通じて、医療機関が行う研修プログラムの策定等を支援
- 大学等において、卒後教育や、出産等で一時的に職場を離れた医師・看護師等への再教育を実施するなど、ニーズに応じた教育体制を整備
- 救急・小児・周産期医療等に従事する意思を有する医学生を確保・育成
- 地域で健康づくりや疾病予防を支える医師を育成
- 医師の派遣実態の把握等、東京の特性を踏まえた調査、分析を行い、全国の状況を踏まえながら、医師確保策を検討、推進

<取組の方向性>

課題①

高度医療・先進的な医療を担う人材の確保・育成

循環器病の知識や技術を有する人材の確保・育成が必要

- 大学等医療人材養成施設や大学病院、特定機能病院等が、地域の医療ニーズを踏まえ、高度医療・先進的な医療を担う人材を育成するとともに、多職種連携によるチーム医療を担う人材を育成
- 循環器病のリハビリテーションに関する高度な知識・技術を持った医療・介護関係者の育成について検討
- 慢性心不全認定看護師等、質の高い看護ケアを実践できる人材の確保について検討
- 適切な緩和ケアの提供に向け、循環器病の緩和ケアの知識・技術を持った医療・介護関係者の育成について検討

課題②

在宅療養を支える人材の確保・育成

在宅療養患者の安心した生活を支える医療・介護人材の確保・育成が必要



- 服薬管理、口腔ケアなど、在宅療養に関わる様々なニーズに対応できる多様な医療・介護人材を確保
- 再発・重症化予防に向け、高齢心不全患者等の在宅療養において適切なリハビリ導入や栄養管理など療養生活のコーディネートを行う人材の育成について検討
- 高齢心不全患者等の患者を支える多職種連携の中核となる人材の育成について検討
- ACP などの意思決定等、身体的、精神的、社会的に患者・家族をサポートできる医療・介護人材を育成
- 医療的ケアを必要とする小児等の在宅療養患者とその家族が、地域で安心して暮らしていけるよう、小児等在宅療養を担う人材の育成

課題③

相談支援を担う人材の確保・育成

患者の不安や悩みを軽減するため人材の確保・育成が必要



- 医療機関に配置する治療と仕事の両立支援コーディネータ（MSW 等）の確保について検討
- 失語症のため意思疎通を図ることに支障がある障害者等が自立した日常生活・社会生活を営むことができるよう、失語症者向け意思疎通支援者を養成
- 医療機関において、循環器病に関する相談支援を担う人材を育成